

協同組合 金沢問屋センター 告知板

理事会報告

- ▷ 1月
 - 次の企業より加入申込があり承認した
 - ㈱ポニータ ㈱トオル
 - 次の企業より脱退申込があり承認した
 - 山崎電機㈱
 - ㈱北陸破砕機センター
 - 大倉新光㈱
 - 次の組合員より増坪の申込があり承認した
 - ㈱たなかや
- 2 第二団地土地代を7月より値上げする事を承認した
- ▷ 2月
 - 組合所有仲使便基地を仲使業者が買いたいと申込があり、審議の結果、業者が協同組合を設立しそれを組合員とする事で売却する事に決定
 - 処理場減菌機故障に付、新方式に改造する事に決定

- 3 共同倉庫空地を駐車場にする事を協議
- 4 10周年記念事業に10年以上勤続者を表彰する事に決定
- ▷ 3月
 - 第二団地組合員松本 ㈱より脱退の申出があり承認した
 - 国、県の指導にもとづき、増資、賦課金増額を協議
 - 下水本管清掃を実施する
- ▷ 4月
 - 組合所有問屋湯を売却し、買入は「クローバーサウナ」の名称でサウナを営業する旨報告
 - 賦課金増額基準を検討
 - 10周年記念事業協賛金について協議

事務局だより

- ▷ 1月
 - 事業委員会
 - 東京大学教授林周二氏を講師に迎え、経営者研修会開催
 - 労務委員会

- 新入社員歓迎式の企画について、又51年度学卒採用後の動向及び、50年度採用内定数、不足数の調査について協議
- 交通安全
 - 団地内事故多発個所に対する改善について協議
- ▷ 2月
 - 事業委員会
 - 共同運送事業アンケート結果について対策協議
 - 労務委員会
 - 52年度事業計画、予算案について協議
 - 建設委員会
 - 共同駐車場狭隘の為、共同倉庫空地の利用を検討、又処理場の減菌機修理について協議
 - 厚生委員会
 - 52年度事業計画、予算案について協議、又10周年記念社員園遊会の詳細について検討
- 交通安全
 - 運転者講習会並びに交通映画上映
- 近代化研究会
 - 幹事会を開催し組合の共同事業について検討、又2月定例会を開催し、事務局大橋労務課長を講師

- に労務問題を聞く
- ▷ 3月
 - 事業、建設、環境、交通安全、各委員会
 - 52年度事業計画予算案について協議
 - 近代化研究会
 - 3月定例会を開催し、組合将来のビジョン作りの為のアンケート調査内容について検討
 - 労務委員会
 - 高卒新入社員研修会ならびに電話教室について協議
- ▷ 4月
 - 建設委員会
 - 会館雨どい修理について検討
 - 交通安全
 - 春の全国交通安全運動の期間中資料を配布して、安全運転を呼びかけ又交差点で歩行者保護と街頭指導を行う
 - 近代化研究会
 - 幹事会を開催し4月定例会について協議し、4月定例会を、北陸銀行経営相談室、中村健次氏を講師に迎え、不良債権の防ぎ方と、その対策について聞く

完成10周年記念第5回社員園遊会

日時 10月8日(土) 午前11時～午後5時
 団地完成10周年を記念して、例年開催しております社員園遊会を更に充実して新しい行事も数多とり入れ開催致します。
 新行事は、第一駐車場に大テントを張り、演芸会場とし、各社のかくし芸大会、のど自慢大会を行います。又、2階ホールでは社員の方の出品による作品展も行います。
 参加希望の方は準備しておいて戴くようお願い致します。
 主な行事内容
 1、食券販売 6、のど自慢大会
 2、果物販売大会 7、作品展
 3、のみの市販売大会 8、A公園でのだて
 4、手相無料鑑定 9、プロの奇術師によるマジックショー
 5、かくし芸大会

早朝野球途中経過(1回戦)

- 石川県米11-1 東、 共立電機7-5 石川トヨベツト
- 成瀬電機5-2 丸信丸岡、 北村電機5-4 田村商店
- 森佐14-5 山和ソーイング、 越井商事6-5 小川B
- 明希10-5 富木医療器、 山和11-0 前垣商店
- 小川商事11-10 丸与商事B、 伊藤洋品5-4 久江田
- 矢部物産7-3 コシハラ、 北日商事16-5 辻茂
- 丸昌1-0 島崎、 奥村15-2 芦原
- 石織15-0 北陸通信、 小川A10-0 小堀酒造

協同組合 金沢問屋センター

第8号 1977年5月発行
 協同組合 金沢問屋センター
 発行者 小川 甚次郎
 金沢市問屋町1丁目
 電話 37-8585



花に坐し月に酔ふ

— 新規学卒新入社員を迎えて —

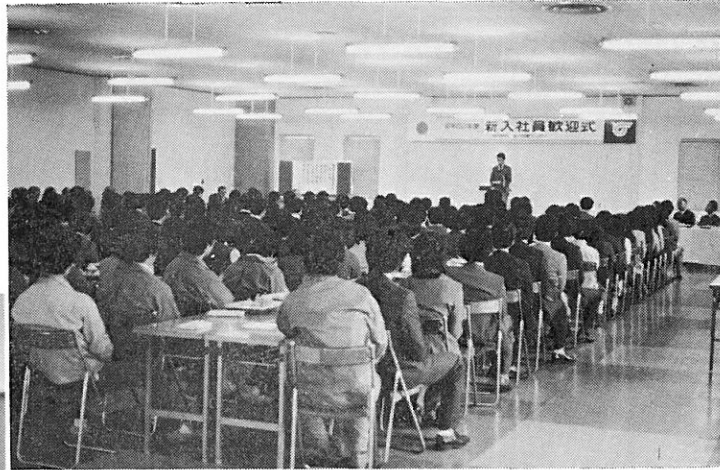
労務委員長 高桑 健 治

10周年を迎えたセンターに春の到来を実感させてくれる恒例の学卒新入社員歓迎式が去る4日2日 150余名の青少年達を迎えて挙行された。ことしの学卒新規就職者は全国で約百万人と推定されている。大学卒の人なら昭和30年頃の生れになり「もはや戦後ではない」と経済白書が宣言したのが昭和30年、皇太子殿下のご成婚が昭和34年、東京オリンピックが開催されたのが昭和38年、この金沢問屋センターが完成したのが昭和42年、そして新幹線の開通、高速自動車道の建設、身近かなもので白黒テレビからカラーテレビの普及、自動車の普及などといった想いつくことを重ね合わせて、この人たちの成長環境を想像すると、それはまぎれもなく驚異的なスピードで成長する日本経済と共に育ってきたといえよう。

そんな過程から家庭においても、学校においても、社会においても、厳しさの欠けた育て方が多くなっているだけに、自由で明るい面は培われてきた反面、甘さの精神が根付き、加えて求人倍率の高かった間、私たち中小企業では求人難の中からようやく採用できた新入社員ということで、企業内でもいつのまにか甘やかしていたのではなかろうか。これからは本人の自立成長のためにも「甘え」の心を除去するように努力しなければならぬ。それだけに実社会の厳しさは、かつての学卒新規就職者が味った以上に、身にこたえるものがあるかもしれないが、いかなる困難にもめげず、あすの日本の担い手にたくましく成長してほしいものである。

新入社員歓迎式挙行を終えて

労務副委員長
道上 明



問屋センターの事業として新入社員歓迎式を開催するようになったのが昭和46年度で、49年度までは事業委員会の管掌行事であったが昭和50年度から労務委員会の所管となって、ことしは4月2日（土）午前11時から第7回新入社員歓迎式を挙行した。

前年度は4月9日（金）で高等学校の新学期が始った翌日というので、来賓の先生方の来席が少く8名であったが、会場ホールの都合でやむをえなかった。しかしことしは13名ほど先生方が来てくださるだろうと予想していたが結果はわずか9名に過ぎなかった。

参加する新入社員にしてみれば母校の先生が新就職を祝って来席しているのと、いないのとでは心理的に動くものが違うであろうと推察して、欠席の返信あった学校へは電話をして願ってみたが某校のみ校長も指導主事も都合できないから学年担当の先生を来席させるという誠意ある返事をいただいたほかは、みな都合がわるいということであった。

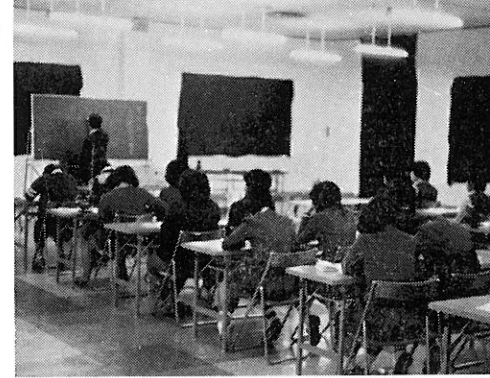
参加事業所は前年度が44社、出席新社員が男子95名、女子75名計170名で本年度は参加事業所41社。出席新社員は男子73名、女子86名計159名で、前年度と

わずかな減であったが事業主の皆様のご出席も含めて210名が着席のうえ、例年ながら盛大な歓迎式を挙行することができたことは学卒新入社員の参加にご協力くださった会社の社長様方のお蔭と感謝いたします。

昨年までは式を終えて昼食歓談の時間にアトラクションとして北陸通信工業㈱の社長様のご理解と同社楽団部の方々のご協力を得て演奏を聞きながら歓談してもらったのだが毎年甘えてお願いするものだろうか？また趣向を変えてみては？という委員のご意見もあって本年度は精神修養を目的とした記念講演を聴かせることが時節柄ふさわしいのではないかとということで、委員各位の意見が一致したので、修養関関西会館館長の中山靖雄先生をお願いして午後1時から「まっさらな心」という演題で1時間30分を聴講者全員に退屈させないよう配慮されながらの講演は全員に深い感銘を与えられた。明年度は更に充実した、新入社員の皆さんにとって新しい喜びと感動が与えられるようなものとして委員会において検討企画したいと考えております。

高校卒新入社員研修所感

大橋 賢 正



4月13日より15日まで、2泊3日
参加事業所23社。
受講者63名（男21名 女42名）

午前6時ベッドからおりてリーダー室のカーテンを除き、窓を開くと杉林のなかから野鳥の囀りが、すがすがしい朝の空気に乗って室内へ飛びこんでくる。6時25分、室内へ鶯の鳴声を混えた軽音楽が流れ、同30分起床時刻が知らされる。新入社員を引率して研修に宿泊している眉丈台に在る国立能登青年の家である。

昨日の和室における30分間の静坐は相当こたえたりしい。顔をゆがめては耐えている者、足がしびれて尻を横揺れさせている者。臉を締めつけて我慢している顔がうかぶ。研修に静坐の時間を採り入れたのは、昨年大学卒新入社員と勤続1年以上3年未満の社員研修を長坂の大乗寺で実施したとき、坐禅の感想文の声からすべては自らの体験を経なければ身に生かしていくものはいかほどだろうか？と痛感した。それぞれの講師の講義、講話も大切である。聞くことによって知識を吸収しこれを生かしていく。また教養を高めていく。

主催者の目標はそのことを望んでいる。知識教養を身につけさせ、人間として、社会人として恥かしくないように育てる手伝いをしようという目的なのである。しかし私は五年間、研修される社員の方々とともに自らも少年、青年に戻ったつもりで共に受講し、坐禅も体験してきた。こうして近道はこれではないかと感じたのが昨年の大乗寺における坐禅であった。講義や講話は身体はその場において聞いているようであるが、聴きたくない講義だと思えば心ここにあらずで、その場から逃げて遊ぶことができる。隣席の者と雑談

することも可能であろう。身体はその場所で拘束されているが、その拘束状態は何らの苦痛を伴わない。だから心は自由である。聴きたくないと思えば聴かずに他のことを考え、自由に心は跳ねまわれる。しかし坐禅・静坐の行となれば身体は規定された状態を保ちながらその場にいらなくてはならぬ。いやだ。早くこの状態から逃れたいと思ひ、心はわが身から離れて自由に遊びたいのだが、この場合は逃避しようとあせればあせるほど、いよいよ逃れることができない自分が知らされてくる。苦痛が深まるだけである。早く終わればよいがと思うだけで終了時刻が来るまではいやおうなく現在に耐えなくてはしようもない。

自己のおかれている現在から逃避する方法が見出されないことを自覚したとき、その自らの苦痛を背負うことになる。しかしこの自覚することが容易ではない。耐えられない時間を耐えていく。そのほかに道はないはずである。感想文にはその耐えられぬ苦痛のまま耐えられた結果のすがすがしさと、これから歩む道において何かヒントが与えられたようだという声が多かった。そこでことしの高卒新入社員研修に試みとして企画の中に静坐を採って委員会に計り、実施した。その結果の感想文を読むと静坐という体験は初めてだという声。早く終わってほしい。それのみを思いつつ苦痛に耐えたという声が多数であった。誰も耐えることは好まないが、耐えて生きねばならぬ道の多い人生にささかヒントが得られるならば、という意図にほかならなかった。

また3日間の研修を終えて考えさせられるのは男性は積極的な行動力・協力性に欠けている者が多かった。むしろ女性の方が積極的な行動力もあり、協力的であった。私見ではあるがこのような同じ企業ではない社員の集合体に、引率者がいづれの企業にも所属しないというところに非協力的であり、遅々とした行動傾向が現われるので、おそらく同一企業の社員とその企業所属の役職者との関係における団体生活であるなら、このような非協力は表面には現われなかっただろうと思う。

1人1人と対話してみるとそのような少年には見えない。愛すべき少年たちが団体生活団体行動となるこの愛すべき性格が隠れてしまうのは、あえてこの人たちだけではなく自らを含めて1人1人に問われてくる問題であろうかと思ひます。

事業、労務、厚生三委員会の 52年度事業計画

事業委員会

- 日時 6月10日(金) 午後1時より3時まで
- 場所 金沢市問屋町会館2階ホール
- 講師 魚津経営実務研究所
所長 魚津欣司氏
- テーマ 第1回 6月10日
「環境変化に対応するための企業体質づくり」人、物、金の有機的な組織化、効率化をはかる
第2回 9月の予定
「流通変革時代に主導権をにぎる 卸売業のマーチャンダイジング」
第3回 11月の予定
「最近の消費者動向の変化と購買態度の変化から、これからのマーケットをどうとらえたらよいか」

労務委員会

事業名	実施月	摘要
新入社員歓迎式	4	午後より研修講演
新入社員電話教室	4	2日2回に分けて実施(1回3時間)
高校卒新入社員研修会	4	国立能登青年の家
労務委員会	4	
大学卒新入社員研修会	5	上旬大乗寺
労務委員会	5	
営業社員研修会	6	勤続1年以上3年未満
賃金実態調査	6	
労務委員会	6	
高校進路指導主事との座談会	6	
労働事情実態調査	7	
労務委員会	8	
青少年意識調査	8	

青少年社員との座談会	9
労務委員会	9
女子社員研修会	11
労務委員会	12
学卒求人採用数・退職者数調査	12
労務委員会	53年2
労務委員会	3

講習会等	8回
事業運営委員会	8回
調査	4回

厚生委員会

- 第10回商社対抗野球大会
日時 5月10日～7月下旬 午前6時開始
場所 金沢問屋センター球場
- 第7回麻雀大会
日時 6月26日(日) 正后開始
場所 金沢問屋町会館2階ホール
- 第10回納涼盆おどり大会
日時 7月23日(土) 午後7時 雨天時7月30日
場所 北陸銀行横第一共同駐車場
- 第3回ソフトボール大会
日時 9月23日、25日
場所 金沢問屋センター球場
- 10周年記念社員園遊会
日時 10月8日(土) 午前11時～午後5時
場所 金沢問屋町会館2階ホール及びA公園、共同駐車場
- 健康診断
日時 9月19日、20日 午前9時30分～午後4時
場所 金沢問屋町会館2階ホール
- お茶教室 毎週水曜日 午後6時 会館2階和室 裏千家
- お花教室 毎週金曜日 " " 草月流

近代化研究会 会社を見る要因 (3) 最終回 ——経営分析の手法——

Ⅲ 成長力

- 売上高の伸びは
算式 $\frac{\text{当期売上高}}{\text{前期売上高}} \times 100 (\%)$ 目標120%以上 標準経営指標 %
- 付加価値高(粗利益)の伸びは
算式 $\frac{\text{当期付加価値高(粗利益)}}{\text{前期付加価値高(粗利益)}} \times 100 (\%)$ 目標120%以上 標準経営指標 %
- 経常利益はふえているか
算式 $\frac{\text{当期経常利益}}{\text{前期経常利益}} \times 100 (\%)$ 目標120%以上 標準経営指標 %
- 投下資本の増大は
算式 $\frac{\text{当期末総資本}}{\text{前期末総資本}} \times 100 (\%)$ 目標115%以上 標準指標 %
- 固定資産の拡充は
算式 $\frac{\text{当期末固定資産}}{\text{前期末固定資産}} \times 100 (\%)$ 目標120% 標準経営指標 %
- 人件費の増加は
算式 $\frac{\text{当期人件費}}{\text{前期人件費}} \times 100 (\%)$ 目標110～120% 標準指標 %

Ⅳ 商品力

- 限界利益率(粗利益率)はどうか
算式 $\frac{\text{限界利益(粗利益)}}{\text{売上高}} \times 100 (\%)$ 目標メーカー40%以上 商社15%以上 標準経営指標%
- 市場占有率の伸びはどうか
算式 $\frac{\text{自社の売上高}}{\text{同業全体の売上高}} \times 100 (\%)$ 目標高いほどよい
- 商品開発力はどうか
算式 $\frac{\text{3年以内に開発した新製品売上高}}{\text{売上高}} \times 100 (\%)$ 目標メーカー30%以上 商社20%以上
- 研究開発費は何%か
算式 $\frac{\text{研究開発費}}{\text{売上高}} \times 100 (\%)$ 目標メーカー1%以上 商社0.5%以上

Ⅴ 生産性

- 1人1ヶ月付加価値(粗利益)はどうか
算式 $\frac{\text{年間付加価値高(粗利益)}}{\text{延従業員数(人数} \times 12)}$ 目標メーカー150千円 商社200千円 標準経営指標 千円
- 設備投資の効率はどうか
算式 $\frac{\text{年間付加価値高}}{\text{有形固定資産}} \times 100 (\%)$ 目標高いほどよい
- 1人当り有形固定資産はどうか
算式 $\frac{\text{有形固定資産一建設仮勘定}}{\text{従業員数}}$ 目標高いほどよい
- 総資本の投資効率はどうか
算式 $\frac{\text{年間付加価値高(粗利益)}}{\text{総資本}} \times 100 (\%)$ 目標メーカー100%以上 商社70%以上
- 賃金分配は適正か
算式 $\frac{\text{総人件費}}{\text{付加価値高(粗利益)}} \times 100 (\%)$ 目標30～40%の間

Ⅵ 金融力

- 実質金利は何%か
算式 $\frac{\text{支払利息一受取利息}}{\text{借入金+割手一定期予金}} \times 100 (\%)$
- 短借と割手は固定預金の何倍か
算式 $\frac{\text{担保裏付借入金+割手}}{\text{固定性預金}}$ 目標メーカー3倍 商社2.5倍
- 借入金返済能力はあるか
算式 $\frac{\text{償却前利益}}{\text{借入金利息+年間長期借入金返済額}} \times 100 (\%)$ 目標2倍